

平成30年度の取組みについて

平成30年10月11日(木)

第1回幌延町まち・ひと・しごと創生会議

幌延町地域振興(観光)計画について【平成28年度策定】

平成28年度に「幌延町地域振興(観光)計画」を策定。主な内容は、以下の通り。

目指す姿

メイン 「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち
HORONOBE/ほろのべ

サブテーマ ~北緯45°のゲートウェイ
【関所】を目指して~

基本理念

- ①観光振興を通じてまちが“潤い・元気”になる
- ②幌延にしかない貴重な体験・経験を提供し、“幌延ファン”を増やす
- ③立地を活かし、宗谷地域を訪れる観光客の“交流点”となる
- ④エネルギーを生産・研究するまちとして、“観光・環境・学術の共存”を目指す
- ⑤“町民みんなが活躍”することで、人口減少に負けない観光まちおこしを実現する

基本戦略

- 戦略1. 既存観光施設の魅力向上
- 戦略2. 雄大な自然資源の活用
- 戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出
- 戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発
- 戦略5. 地域特産品の開発
- 戦略6. 冬の賑わい創出
- 戦略7. 情報発信の強化
- 戦略8. 幌延町と宗谷地域における交流・交通の要処となる拠点の整備

幌延町地域振興(観光)計画について【平成28年度策定】

計画の策定にあたっては、『幌延町まち・ひと・しごと創生会議「幌延町地域振興(観光)計画」検討会』を設置し、内容検討等や観光資源調査を実施。また、検討ワークショップの開催、さらに各種アンケート調査、小・中・高校生を対象とした観光アイデアコンテストを実施。

本計画策定に関わる調査・検討

項目	概要
幌延町地域振興(観光)計画」検討会	観光関係者や公募の他、産官学金労言議による検討会を開催
検討ワークショップ	特産品開発や拠点づくり、まちづくりの3つのテーマで検討
観光資源調査	夏期・秋期・冬期の観光資源について関係者や町民等と調査
おいでよ!ほろのベアイデアコンテスト	幌延町に住む小学生、中学生、高校生を対象にアイデア募集
町民アンケート調査	観光に関する町民の意識等を把握するためのアンケートを実施
旅行者アンケート調査	旅行者のニーズ等を把握するため観光客にアンケートを実施
まちづくり講演会	地域活性化と観光に関する講演会を開催

幌延町総合計画及び幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標

記載計画		指標	平成24年度実績	平成31年度目標
総合計画	総合戦略			
●		観光資源に恵まれたまちと思う人の割合	13.1%	18%
●	●	観光入り込み客数	121,782人	130,000人
●	●	トナカイ観光牧場入場者数	48,244人	50,000人
	●	鉄道系観光客数	-	500人

幌延町地域振興(観光)計画

「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち
HORONOBE/ほろのべ

～北緯45°のゲートウェイ【関所】を目指して～



平成29年3月

表紙

幌延町地域振興(観光)計画アクションプランについて【平成29年度策定】

1. アクションプランの目的・概要

○計画目的

幌延町地域振興(観光)計画の推進を目的に、具体的な取り組みを定めた行動計画です。

○概要

総合計画の下位に位置付けられている「幌延町地域振興(観光)計画」にぶら下がる形で位置付けられているプランです。(右図参照)

幌延町地域振興(観光)計画に基づき、具体的な取り組みを展開するために、「短期」「中期」「長期」の大きなスケジュールに沿って、具体的な行動を計画を記載しています。

なお、本プランは上部計画である「幌延町地域振興(観光)計画」の見直し時の他、PDCAサイクルに基づき、プランの見直し・改善を行います。

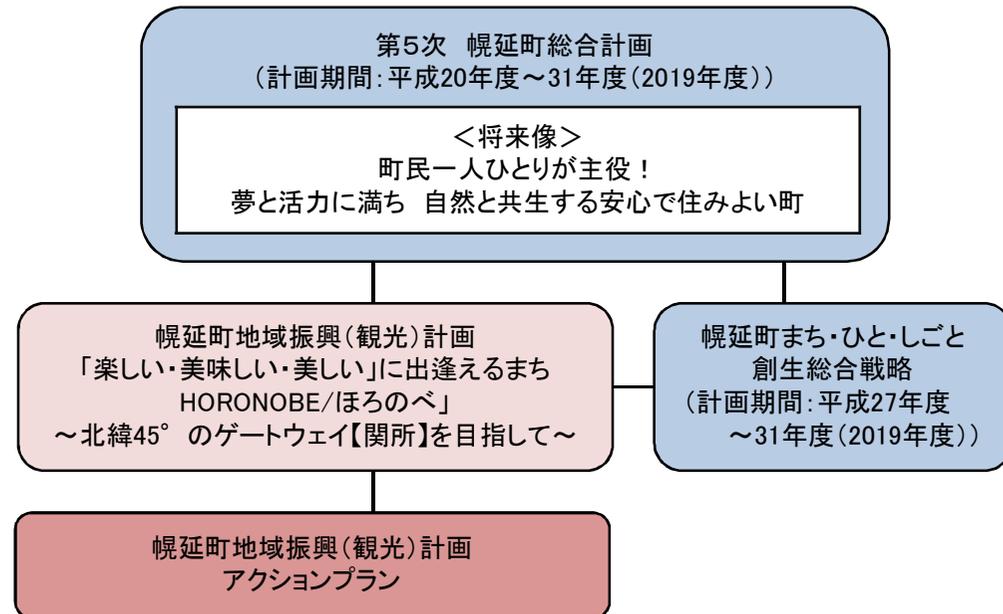


図1.各種計画の位置づけフロー



図2.PDCAサイクル図

幌延町地域振興(観光)計画アクションプランについて【平成29年度策定】

2. 幌延町地域振興(観光)計画の概要

「幌延町地域振興(観光)計画」の主な内容は、以下の通りです。

基本戦略	主な施策	
戦略1. 既存観光施設の魅力向上	トナカイ観光牧場	戦略1-1 観光客受入環境整備の推進
		戦略1-2 トナカイのイメージを活かした演出
	幌延ビジターセンター及びサロベツ原野エリア	戦略1-3 美しく花を見せる花壇の整備
		戦略1-4 自然を体感できるメニューの開発と提供
		戦略1-5 木道等の環境整備
	オトンレイ風力発電所	戦略1-6 クリーンエネルギーや風車を体感できるメニューの開発
戦略2. 雄大な自然資源の活用	戦略2-1 北大天塩研究林を活用した教育型プログラムの開発と提供	
	戦略2-2 四季に応じた体験メニューの開発(山菜、鮭の遡上、バードウォッチング等)	
戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出	戦略3-1 秘境駅等の鉄道資源を活用した観光振興	
	戦略3-2 サイクリングやカヌー、フィッシング、徒歩等のクワイエットスポーツによる観光振興	
戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発	戦略4-1 豊かな自然を身近に感じるキャンプ場の利活用	
	戦略4-2 酪農等を体験する農家民泊の実施	
戦略5. 地域特産品の開発	戦略5-1 酪農の6次産業化や特産品開発	
	戦略5-2 トナカイや合鴨の生産強化及び新たな商品の開発	
	戦略5-3 地域特性を活かした農業の展開	
	戦略5-4 湧水の活用	
	戦略5-5 外部連携による食資源の活用	
戦略6. 冬の賑わい創出	戦略6-1 アイスキャンドル等による官民連携・協働イベントの開催	
戦略7. 情報発信の強化	戦略7-1 動画等による情報発信の強化	
	戦略7-2 観光大使による情報発信の強化	
	戦略7-3 町内飲食店の情報発信の強化	
	戦略7-4 ホスピタリティの充実	
戦略8. 幌延町と宗谷地域における交流・交通の要処となる拠点の整備	戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点	
	戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点	
	戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点	

平成30年度の事業について

(1) アクションプランの推進

①着地型コンテンツの検討

平成29年度の学生モニターツアーの結果を踏まえ、着地型のコンテンツの検討及び一般旅行者を対象としたモニターツアーを実施する。

②特産品開発の検討

トナカイ、合鴨、乳製品など、幌延町らしい食資源を活用し、専門家からのアドバイス等を踏まえ、新たな地域特産品の検討・試食会を行う。

③観光マネジメント組織設立に向けた基礎資料整理

観光協会の法人化や地域DMO法人の設立等の可能性も含め、幌延町の観光振興を担う組織・機関について検討するための基礎資料を整理する。

(2) 拠点計画の検討

①勉強会の開催

地域における拠点・道の駅の運営、取り組み、あり方等を学ぶことを目的として、実際の道の駅などを訪れ視察勉強会を1回開催する。

②ワークショップの開催

拠点の運営や機能等の計画について、町民の意見を広く取り入れるため、検討ワークショップを2回開催する。

③拠点計画の検討

ワークショップや検討委員会の議論を踏まえ、幌延町における拠点の機能や配置などの具体的な計画を策定する。

(3) 検討委員会の運営・開催支援

地型観光の創出、地域特産品の開発、拠点計画の検討など、具体的な取組に向けての協議・検討を行う。**①検討委員会【3回】**

平成30年度の事業について

(1) アクションプランの推進

①着地型コンテンツの検討

平成29年度の学生モニターツアーの結果を踏まえ、着地型のコンテンツの検討及び一般旅行者を対象としたモニターツアーを実施する。

目的	旅行会社や体験観光のネット販売会社関係者、周辺観光協会関係者を招聘し、モニターツアーを実施し、次年度の具体的な着地型コンテンツの販売に向けたアドバイスを頂く。
実施時期	10月末・1泊2日予定（日程調整中）
招聘する方（案）	○体験観光をネットで販売する会（宝島旅行者社など） ○大手旅行会社（クラブツーリズムや近畿日本ツーリストなど） ○その他（近隣市町村観光関係者など）
モニター内容（案）	①幌延ビジターセンター及びその周辺のサロベツ原野 ②トナカイ観光牧場や各種体験観光プログラム ③その他、今後旅行者に提供ができる体験観光プログラム等
備考	次年度から団体ツアーの商品化やネット販売頂くように調整する。

②特産品開発の検討

トナカイ、合鴨、乳製品など、幌延町らしい食資源を活用し、専門家からのアドバイス等を踏まえ、新たな地域特産品の検討・試食会を行う。

目的	トナカイ、鴨肉などの幌延町ならではの食材や森林が生み出す新たな食材を発掘し、幌延の特産品開発を行う。
実施内容①	新たな食材の発掘（10/15-16） ブラッスリーコロン塚田シェフ及び北海道大学玉井先生を招いて、北大演習林などの「森林」が生み出す新たな食材の発掘を行う。
実施内容②	試食会の開催（11月末～12月上） トナカイ肉や鴨肉の他、新たに発掘した食材を活用し、ブラッスリーコロンウィズルクルーゼにて、幌延町食材を使用した特別なディナーイベントを実施する。
実施内容③	鴨ラーメンの開発検討（11月～2月） 札幌の有名ラーメン店「麺屋エイジ」の協力を得て、幌延産の鴨を使い、鴨ラーメンの開発検討を行う。

丸井今井大通館3階にあるブラッスリーコロン。生産者と消費者をつなぐ取り組みを行っている。



現在、ダックラーメン エイジ（札幌東区）では滝川産の鴨を活用し、鴨出汁ラーメンを提供している。



平成30年度の事業について

(2) 拠点計画の検討

①勉強会の開催

地域における拠点・道の駅の運営、取り組み、あり方等を学ぶことを目的として、実際の道の駅などを訪れ視察勉強会を1回開催する。

目的	実際の道の駅や地域拠点を視察し、運営方法や課題、町としてのメリットなどについて学ぶ。
実施時期	11月・日帰り予定
実施内容	<ul style="list-style-type: none">・幌延町と同規模程度の町に設置されている道の駅、拠点施設の機能や運営方法・観光エリアのゲートウェイとなっている道の駅や拠点施設・補助金などをうまく活用し、整備している道の駅や拠点施設

②ワークショップの開催

拠点の運営や機能等の計画について、町民の意見を広く取り入れるため、検討ワークショップを2回開催する。

目的	拠点計画の策定に向けて、具体的な機能や配置、運営方法等について検討を行う。
第1回	昨年度までの検討を踏まえ、具体的な設置個所案における機能や運営方法などについて検討を行う。 実施時期：11月
第2回	第1回目のワークショップや検討委員会、視察勉強会を踏まえ、配置箇所や道の駅の機能・規模、運営方法、平面レイアウトイメージ等具体的な検討を行う。 実施時期：1月中旬～2月中旬



平成29年度のワークショップ開催状況

平成30年度の取組みについて

(3) 検討委員会、ワークショップ及び庁内協議の開催

地型観光の創出、地域特産品の開発、拠点計画の検討など、具体的な取組に向けての協議・検討を行う。
※資料及び会議録作成、運営補助

①検討委員会【3回】

アクションプランの策定を目的とし、まち・ひと・しごと創生会議メンバーを中心に検討委員会を組織し、3回の会議を開催する。

回数	内容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長の選出 ・平成29年度取組成果報告 ・平成30年度の事業案説明
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業の進捗報告 ・拠点及び道の駅づくりに関する検討
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業成果の報告 ・拠点計画の策定

スケジュール（想定）

項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①着地型コンテンツの検討		■				
②特産品開発の検討						
新たな食材探し	■					
札幌での試食会の開催		■				
鴨ラーメンの開発		■	■	■	■	■
③観光マネジメント組織設立に向けた基礎資料整理				■	■	
④勉強会の開催【1回】		■				
⑤ワークショップの開催【2回】		■		■		
⑥拠点計画の策定		■	■	■	■	■
⑦検討委員会の開催	■		■		■	

◇幌延町と宗谷地域の交流・交通拠点整備に関する検討経過説明資料

○道の駅整備場所の検討【各プランにおいて想定される特色・機能・サービス・効果】

◇幌延町まち・ひと・しごと創生会議協議用資料◇

<p>プランA:新天塩大橋付近</p> <ul style="list-style-type: none"> トナカイ・ロマノフスキー観光(飼育)牧場、ノースガーデン 夏季;そば畑、施設園芸 冬季;スノーモービル・カイト体験場 電熱供給施設(バイオマス、廃棄物ペレット) スーパー銭湯(簡易宿泊設備付;憩いの湯代替施設)orシャワー 道の駅&川の駅(アクティビティ体験拠点) <p>【特色ある機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①カヌーポート、保管庫 ②天塩川・サロベツ川遊覧船 ③サイクリング拠点 ④コミュニティスペース
<p>プランB:幌延IC付近</p> <ul style="list-style-type: none"> トナカイ・ロマノフスキー観光(飼育)牧場、ノースガーデン 夏季;そば畑、施設園芸 冬季;スノーモービル・カイト体験場 電熱供給施設(バイオマス、廃棄物ペレット) スーパー銭湯(簡易宿泊設備付;憩いの湯代替施設)orシャワー 道の駅 <p>【特色ある機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①サイクリング拠点 ②コミュニティスペース
<p>プランC:幌延市街(JR幌延駅裏)</p> <ul style="list-style-type: none"> 町道新設、ロマノフスキー放牧場 コンビニ(移転)、長應寺宝物保管展示施設、室内遊技場 高齢者用住宅、保健センター、社会福祉協議会、町民農園 スーパー銭湯(簡易宿泊設備付;憩いの湯代替施設)orシャワー 道の駅・(連絡通路)・鉄道駅 <p>【特色ある機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コインランドリー ②商工会、JA ③サイクリング拠点 ④コミュニティスペース ⑤イベント広場、朝市・タ市 ⑥バス発着場
<p>プランD:その他(具体的な位置:トナカイ観光牧場)</p> <ul style="list-style-type: none"> A:トナカイ観光牧場を改修して道の駅として登録 <p>【特色ある機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ゆめ地創館との連携(タワーなど) ②冬のアクティビティ体験(カイト、モービル) ③小動物園、ドックラン ④チーズ工房などの加工施設 <ul style="list-style-type: none"> B:総合スポーツ公園敷地の活用 <p>【特色ある機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ系レジャーの拠点 (野球、サッカー、パークG、ゲートB、カヌー、ランニング、サイクリング等) ②合宿所・簡易宿泊所



自由記載欄

- 道の駅機能の質を高め集客を図るためには、食の部分(フードコートなど)は充実させるべき。また、施設の外での催事を充実させる
- ライダーやサイクリスト、キャンパーの足を止めるために、シャワー室やコインランドリーを併設する
- 利用満足度の高い施設を目指すこと、特色ある食べ物を提供できれば来場者確保につながる(例;ドッグラン併設、雪印パーラー)
- ガソリンスタンド(電気自動車充電含む)もあると、便利で安心
- 近年の道の駅の位置づけ~旅の目的地(地場産品・特産品販売、スタンプラリー)
- 道の駅を整備するならば、トナカイ観光牧場のあり方を合わせて議論する必要がある
- Aは通年アクティビティ体験の可能性が広がり、ロケーションも良い。観光客目線で考えると魅力がある
- Cは町の拠点である幌延駅を活用した案であり、相対的に立地に適した案、利用度と町の諸課題解決を考えると魅力がある
- AとCが両立するプラン(機能分散と強化)も考える価値があるのではないか
- Cに整備する場合、スペースに限られるので、既存施設・店舗との連携・補完が必要。
- 実施体制の検討を並行して行うことにより具体性・実効性が高まる。⇒複合施設にすることにより機能の集約・運営効率化を図る

※本資料の内容は、検討中のものであり、今後の協議・検討により、内容が精査されます。